2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道整復実技Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎202
担 当 教 員	尾藤　何時夢	実務経験とその関連資格	柔道整復師として30年勤務(昭島名倉堂接骨院4年、名倉堂尾藤接骨院18年、養成校等の附属接骨院8年)講義内容である柔道整復業務を行っていた。			

《授業科目における学習内容》

柔道整復師養成に伴う厚生労働省(学校協会)規程の教育内容に沿ってシラバス作成を行う。

《成績評価の方法と基準》

中間試験と期末試験にて記述試験を行う。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版
参考資料:必要に応じ作成した資料を使用する

《授業外における学習方法》

次回授業内容を確認するため、第1回目授業時に授業計画を配布することにより、学生は事前学習を行うとともに小テストなどで確認する

《履修に当たっての留意点》

国家試験出題基準に応じた授業内容とするため、教科書を熟読すること

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	ガイダンス用資料 ①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料①	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	前期授業計画の提示とオリエンテーション 鎖骨骨折の解剖、概要、発生機序、症状について		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料①	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	前回の復習(小テストを含) 鎖骨骨折の合併症、整復固定法、後療法について		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料①	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	前回の復習(小テストを含) 胸骨骨折の解剖、概要、発生機序、症状、合併症、整復固定法、後療法について		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料②	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位端部骨折①(分類含む) 骨頭骨折と解剖頚骨折の解剖、概要、発生機序、症状、合併症、整復固定法、後療法について		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料②	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位端部骨折② 外科頚骨折の解剖、概要、発生機序、について		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料②	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位端部骨折③ 外科頚骨折の症状、合併症、整復固定法、後療法について		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折の解剖、概要、発生機序、症状、合併症、整復固定法、後療法について		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位端より骨幹部にかけての整復固定法実技		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位端部骨折①(分類含む) 顆上骨折の分類、解剖、概要、発生機序、について		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位端部骨折② 顆上骨折の症状、合併症、整復固定法、後療法について①		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位端部骨折③ 顆上骨折の症状、合併症、整復固定法、後療法について②		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位端部骨折④ 外顆骨折の分類、分類、解剖、概要、発生機序、について		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位端部骨折⑤ 外顆骨折の症状、合併症、整復固定法、後療法について		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位端部骨折⑥ 内側上顆骨折の解剖、概要、発生機序、症状、合併症、整復固定法、後療法について		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学各論　自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 次週小テストに備え復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	前期全ての復習を実施　学生の理解度の確認		